

(17) レタス  
ア 殺菌剤

農薬名	成分名	FRAC コード	適用病害虫名										注意事項		
			菌核病	軟腐病	灰色かび病	斑点細菌病	腐敗病	すす枯病							
アグレプト液剤	ストレプトマイシン	25					◎								
アグレプト水和剤 マイシン20水和剤	ストレプトマイシン	25					◎								
アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン	11	◎		◎			◎							
アフェットフロアブル	ペンチゼート	7	◎		◎			◎							
オリゼメート粒剤	プロパザール	P02				◎	◎								
カスミンボルドー	カスカマイシン・塩基性塩化銅	24・M01				◎	◎								葉害を生ずることがあるので、炭酸カルシウム剤を加用すること。特に幼苗期や高温時の散布は葉害を生じやすいので避けること。なお、収穫間際の散布は収穫物に汚れを生ずる場合があるので留意する。
カセット水和剤	オキシニク酸・カスカマイシン	31・24		◎		◎	◎								
カーニバル水和剤	ジメトモル・TPN	40・M05						◎							
カンタスドライフロアブル	ボスカリト	7	◎		◎										
キノンドーフロアブル	有機銅	M01		◎		◎	◎								
クプロシールド	塩基性硫酸銅	M01		野		野									野：【野菜類登録】結球期以降の使用は外葉にさび状斑の葉害を生じる場合があるので注意すること。
ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル	10・1	◎		◎										
ケンジャフロアブル	イソフェタミド	7	◎		◎										
コサイド3000	水酸化第二銅	M01		野		野									野：【野菜類登録】
シグナムWDG	ピラクロストロビン・ボスカリト	11・7	◎		◎			◎							
ジーファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・無水硫酸銅	NC・M01		野			◎								野：【野菜類登録】高温時や結球開始以降の葉害が発生しやすい時期の散布では、炭酸カルシウム水和剤を加用する。
スターナ水和剤	オキシニク酸	31		◎		◎	◎								
スミブレンド水和剤	ジエトフェンカルブ・プロシミドン	10・2	◎		◎										
スミレックス水和剤	プロシミドン	2	◎		◎										
ダコニール1000	TPN	M05			◎			◎							
ダコレート水和剤	ペンシル・TPN	1・M05			◎			◎							
ドイツボルドーA	塩基性塩化銅	M01		野		◎	◎								野：【野菜類登録】葉害を生ずることがあるので炭酸カルシウム剤を加用すること。特に幼苗期や高温散布は葉害を生じやすいので避けること。なお、収穫間際の散布では収穫物に汚れを生ずる場合があるので留意する。
ドーシャスフロアブル	シアゾファミド・TPN	21・M05						◎							
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	1	◎		◎			◎							
ナレート水和剤	オキシニク酸・有機銅	31・M01		◎		◎	◎	◎							

農 薬 名	成 分 名	FRAC コード	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項			
			菌 核 病	軟 腐 病	灰 色 か び 病	斑 点 細 菌 病	腐 敗 病	す そ 枯 病								
ニマイバー水和剤	ジ <sup>®</sup> イトフェンカルブ <sup>®</sup> ・ヘ <sup>®</sup> ノミル	10・1	◎		◎											
ネクスターフロアブル	イソ <sup>®</sup> ラサ <sup>®</sup> ム	7	◎		◎					◎						
バリダシン液剤 5	ハ <sup>®</sup> リダ <sup>®</sup> マイシン	U18		◎					◎	◎						
パレード20フロアブル	ピ <sup>®</sup> ラジ <sup>®</sup> フルミ <sup>®</sup>	7	◎		◎					◎						
ファンタジスタ顆粒水和剤	ピ <sup>®</sup> リベン <sup>®</sup> カルブ <sup>®</sup>	11	◎		◎					◎						
フジドーLフロアブル	塩基性硫酸銅	M01		◎												結球期以降の使用は外葉および結球葉にさび状斑の薬害を生じる場合があるので注意すること。
フロンサイドSC	フルアジ <sup>®</sup> ナム	29		◎						◎						生育抑制を伴う薬害を生じる場合があるため注意すること。なお、収穫期には生育が回復する場合もある。
ベジセイバー	ヘ <sup>®</sup> ンチオ <sup>®</sup> ピ <sup>®</sup> ラト <sup>®</sup> ・TPN	7・M05	◎		◎					◎						
ベルクート水和剤	ミノ <sup>®</sup> ク <sup>®</sup> ジン <sup>®</sup> アル <sup>®</sup> ベ <sup>®</sup> シル <sup>®</sup> 酸 <sup>®</sup> 塩	M07	◎		◎											
ベンレート水和剤	ヘ <sup>®</sup> ノミル	1	◎		◎					◎						
マスターピース水和剤	シュ <sup>®</sup> ート <sup>®</sup> モ <sup>®</sup> ナス <sup>®</sup> ロ <sup>®</sup> テ <sup>®</sup> シア	NC		◎		◎	◎									
メジャーフロアブル	ピ <sup>®</sup> コ <sup>®</sup> キシ <sup>®</sup> ト <sup>®</sup> ピ <sup>®</sup> ヒ <sup>®</sup> ン	11	◎		◎					◎						
モンガリット粒剤	シ <sup>®</sup> メ <sup>®</sup> コ <sup>®</sup> ナ <sup>®</sup> ソ <sup>®</sup> ール	3								◎						
ヨネポン水和剤	ノ <sup>®</sup> ル <sup>®</sup> フェ <sup>®</sup> ノ <sup>®</sup> ール <sup>®</sup> ス <sup>®</sup> ル <sup>®</sup> ホ <sup>®</sup> ン <sup>®</sup> 酸 <sup>®</sup> 銅	M01		◎		◎	◎									結球部、外葉に薬害を生じる場合があるため注意すること。
ロブラール水和剤	イ <sup>®</sup> ブ <sup>®</sup> ロ <sup>®</sup> ン <sup>®</sup> オン	2	◎		◎					◎						
ICボルドー66D	塩基性硫酸銅	M01		野												野：【野菜類登録】生育期後半の散布及び連用によって薬害を生じる場合があるので注意すること。
Zボルドー	塩基性硫酸銅	M01		野		野	◎									野：【野菜類登録】幼苗期の散布または過度の連用は、薬害を生ずるおそれがあるのでさける。



農薬名	成分名	IRACコード	適用病害虫名													注意事項	
			ア ブ ラ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	ネ キ リ ム シ 類	カ ブ ラ ヤ ガ	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	ナ モ グ リ バ エ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ナ メ ク ジ ・ マイ マイ 類				
コンフューザー V	アルミク <sup>ル</sup> ア <sup>・</sup> ウワハ <sup>ル</sup> ア <sup>・</sup> タ <sup>イ</sup> アモル <sup>ア</sup> ・ヒ <sup>ー</sup> ト <sup>ア</sup> -ミル <sup>ア</sup> ・リトル <sup>ア</sup>			野	野	野											野:【野菜類登録,ヨウシはヨウシ・シイモシヨウで適用】 適当な長さの支柱に4本取り付け圃場全体に配置し、取り付け位置は地上50~60cmとする
ジュリボフロアブル	クロラントラニブ <sup>・</sup> ロール <sup>・</sup> チアトキサム	28・4A	◎	◎	◎	◎		◎			◎						
スピノエース顆粒水和剤	スピノサト <sup>・</sup>	5		◎		◎						◎					
スラゴ	燐酸第二鉄											◎					【作物指定無しで登録】
ゼンターリ顆粒水和剤	BT	11A		野	野	野											野:【野菜類登録】
ダントツ水溶剤	クロチアニジン	4A	◎								◎						
ダントツ粒剤	クロチアニジン	4A	◎														
チューンアップ顆粒水和剤	BT	11A		野		野											野:【野菜類登録】
ディアナSC	スピノトラム	5			◎	◎					◎						
デルフィン顆粒水和剤	BT	11A			野	野											野:【野菜類登録】
トアロー水和剤CT	BT	11A		野													野:【野菜類登録】
トランスフォームフロアブル	スルホキサフロ	4C	◎														
トルネードエースDF	イントキサカブ <sup>・</sup>	22A		◎	◎	◎											
トレボン乳剤	エトフェン <sup>・</sup> ロックス	3A	◎														
トレボンエアー	エトフェン <sup>・</sup> ロックス	3A		無													無:無人航空機による散布で登録
ナメクリー3	メタアルテ <sup>・</sup> ヒト <sup>・</sup>											◎					
ネマキック粒剤	イミシアホス	1B								◎							
ネキリエースK	イソキサチオン	1B					◎										
ノーモルト乳剤	テルベンス <sup>・</sup> ロン	15			◎												
バイデートL粒剤	オキサミル	1A						◎	◎								
ハクサップ水和剤	フェンバ <sup>・</sup> レレート <sup>・</sup> マラソン	3A・1B	◎			◎											
パダンSG水溶剤	カルタップ <sup>・</sup>	14	◎								◎	◎					
ハチハチ乳剤	トルフェン <sup>・</sup> ヒ <sup>・</sup> ラト <sup>・</sup>	21A	◎								◎		ナ				ナ:【ナメクジ類登録】
ハチハチフロアブル	トルフェン <sup>・</sup> ヒ <sup>・</sup> ラト <sup>・</sup>	21A	◎								◎		ナ				ナ:【ナメクジ類登録】
ファルコンフロアブル	メトキシフェ <sup>・</sup> ジト <sup>・</sup>	18			◎	◎											
フェニックス顆粒水和剤	フルベン <sup>・</sup> シ <sup>・</sup> アミト <sup>・</sup>	28		◎	◎	◎											
フォーソ粒剤	テフルリン	3A					◎										
プリロツソ粒剤	シアントラニブ <sup>・</sup> ロール	28	◎			◎						◎					



(17) レタス  
ウ 土壌消毒剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項		
			ケ ラ	ネ キ リ ム シ 類	ハ リ ガ ネ ム シ 類	セ ン チ ユ ウ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	コ ガ ネ ム シ 類	根 腐 病	す そ 枯 病				
ガ バ ス タ ー ド 微 粒 剤 ア ミ ド 微 粒 剤	ダゾメット	I:8F					◎					◎			
キ ル パ ー	カーバムトリアム塩	I:8F					◎				◎	◎			
ク ロ ー ル ピ ク リ ン	カルビ°クリン	I:8B	◎	◎	◎	◎					◎				
ク ロ ピ ク 8 0 ド ジ ョ ウ ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル	カルビ°クリン	I:8B		◎	◎	◎					◎				
ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤	カルビ°クリン	I:8B				◎					◎				
テ ロ ン D C 油 剤 D	D-D	I:8A					◎	◎	◎						

(17) レタス  
エ 残渣処理剤

農 薬 名	成 分 名	I R A C コ ー ド	使用目的	注 意 事 項
キルパー	カーバムトリアム塩	8F	前作のいちごの初サセンチュウ蔓延防止	使用目的以外での 使用不可
			前作のきゅうりのコジラミ類蔓延防止	
			前作のきゅうりのつる枯病蔓延防止	
			前作のきゅうりの根腐病蔓延防止	
			前作のきゅうりの褐斑病の蔓延防止	
			前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネブセンチュウ蔓延防止	
			前作のトマトのハクサイダニ蔓延防止	
			前作のトマト又はミニトマトのコジラミ類蔓延防止	
			前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止	
			前作のなすのザリウム立枯病の蔓延防止	
			前作のにんにくの根サセンチュウ蔓延防止	
			前作のねぎの作物残渣に寄生したクハネコバエ類蔓延防止	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物のアザミ類蔓延防止	
前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死				

## オ 病害虫防除法（レタス）

### （ア）菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

#### （防除のねらい）

露地では9～10月および3～4月に多く、トンネル栽培では低温多湿条件で冬でも発生する。病原菌は好気性菌であり、空気の多い土壌の表層でしか生存しない。被害部の菌核は単独でも土中に生存しているので、ほ場の菌核密度を下げることに努める。

#### （耕種的防除法）

- （1）被害株を除去し、菌核をほ場に残さないようにする。
- （2）水田裏作を利用すると夏季の湛水期間中に土中の菌核は死滅する。
- （3）ポリマルチを行ない株元の湿度を下げるとともに、子のう盤の形成や子のう胞子の飛散を抑える。
- （4）トンネル栽培では換気に努め、トンネル内が過湿とならないようにする。

### （イ）すそ枯病 *Rhizoctonia solani*

#### （防除のねらい）

病原菌は土壌中または被害組織上の菌核、菌糸塊で越冬し、土壌伝染する。発病は20～25℃の条件下で多く、多湿条件によって助長される。

#### （耕種的防除法）

- （1）連作を避ける。
- （2）土壌pHを中性付近に矯正する。
- （3）マルチ栽培をする。
- （4）発病葉や枯死株はほ場外に運んで、埋没などの確実な処理を行なう。

### （ウ）軟腐病 *Erwinia carotovora* subsp. *carotovora*

#### （防除のねらい）

年間を通じて発生するが、初夏から初秋までの気温の高い時期には極めて多い。風雨や寒害などで茎葉が傷んだ場合に病原菌は侵入しやすく、発病が多くなる。薬剤防除効果が出にくい病気なので、耕種的防除に重点を置く。

#### （耕種的防除法）

- （1）排水対策を徹底する。
- （2）7～8月等、作型の無理な早進を避ける。
- （3）トンネルやタフベル等、風害、寒害対策を講じる。
- （4）汚染土壌を落とさないよう留意しながら被害株を除去する。

#### （化学的防除法の注意事項）

- （1）発病してからの防除は困難なので予防散布の徹底に努める。
- （2）高温・長雨による多湿条件等、発生に好適な場合は周辺ほ場の発生にも注意し、防除が遅れないようにする。
- （3）前年度発生があった場合は菌密度が増加している可能性が高いため、特に注意する。

### （エ）灰色かび病 *Botrytis cinerea*

#### （防除のねらい）

トンネル栽培では10～11月頃と3～4月頃の発生が多い。やや冷涼な多湿条件下で地際部に発病が多いので下葉の発生に注意し、初期防除に努める。

#### （耕種的防除法）

- （1）被害茎葉は早めに除去する。
- （2）トンネル内の換気を図る。
- （3）マルチ栽培をする。

#### （化学的防除法の注意事項）

- （1）発生しやすい下葉にも薬剤が届くように丁寧に散布する。
- （2）薬剤耐性菌が発達しやすいため、散布ムラに気をつけ、薬剤は輪番使用を心がける。
- （3）発生初期に1週間おき2～3回程度、集中的に防除を行い、その後の様子をみて防除の要否を決定する。



**(オ) 斑点細菌病 *Xanthomonas campestris* pv. *vitans***

**(防除のねらい)**

冬季にハウス、トンネル栽培で発生し、湿潤な天候での発生が多い。病原菌は被害組織内で越冬し、降雨時に雨滴と共に飛散、まん延する。病原菌の侵入防止とともに発病株からの二次伝染防止に重点を置く。

**(耕種的防除法)**

軟腐病に準ずる。

**(化学的防除法の注意事項)**

薬剤散布は播種30日頃から結球開始期までの間に行う。

**(カ) 腐敗病 *Pseudomonas cichorii*, *P.marginalis* pv. *marginalis*, *P.viridiflava***

**(防除のねらい)**

寒害で傷んだ場合は冬でも発生するが、露地栽培では梅雨期に多発する。収穫が遅れると発生が多くなることもあるため注意する。病原菌の侵入防止とともに発病株からの二次伝染防止に重点を置く。

**(耕種的防除法)**

- (1) ほ場の排水対策を徹底する。
- (2) 伝染源となる被害茎葉は早めに除去する。
- (3) 適期収穫に努める。

**(化学的防除法の注意事項)**

薬剤散布は結球初めより予防的に行う。

**(キ) モザイク病 LMV, CMV**

**(防除のねらい)**

病原ウイルスはレタスモザイクウイルス (LMV) とキュウリモザイクウイルス (CMV) である。アブラムシによって媒介され、LMVは種子伝染する。アブラムシ防除と健全種子の使用が重要であり、特に9、10月以前に定植する作型ではアブラムシの発生に注意し、定植の遅い作型でも春先の発生に注意する。

**(耕種的防除法)**

- (1) 寒冷紗や防虫網で被覆栽培するか、シルバーマルチ等を行う。
  - (2) 抵抗性品種を利用する。
- アブラムシの項参照。

**(ク) アブラムシ類**

**(防除のねらい)**

発生種は主にモモアカアブラムシ、チューリップヒゲナガアブラムシ、タイワンヒゲナガアブラムシで、他に数種類が寄生する。これらはレタスのウイルス病を媒介する。

**(防除のねらい)**

**(耕種的防除法)**

】 ハクサイの項参照

**(ケ) ネキリムシ類**

**(防除のねらい)**

**(耕種的防除法)**

】 ハクサイの項参照

**(コ) オオタバコガ**

**(防除のねらい)**

キャベツの項参照。

**(サ) ヨトウムシ (ヨトウガ)**

**(防除のねらい)**

キャベツの項参照。

**(シ) ハスモンヨトウ**

**(防除のねらい)**

ハクサイの項参照。

**(ス) ナモグリバエ**

**(防除のねらい)**

発育増殖が最も盛んになるのは15～20℃で、発生は春と秋に多い。県南部では冬季でも被害が発生し、春先になると急激に増加する。薬剤防除は卵と幼虫を狙って行う。

**(セ) ネコブセンチュウ類・ネグサレセンチュウ類**

**(防除のねらい)**

**(耕種的防除法)**

]- サツマイモのセンチュウ類の項参照

**(ソ) マイマイ類（カタツムリ類），ナメクジ類**

**(防除のねらい)**

キャベツのナメクジ，マイマイ類の項参照。